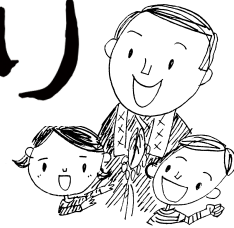


極楽寺だより



2013(平成25)年8月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

盆法会のご案内

暑中お見舞い申し上げます。お盆は都会に出ておられる方々の帰省で、忙しくもうれしい時期です。

ならば、ご家族揃ってお寺にお参りされてはいかがでしょうか。盆法会はお勤めを含めて一時間と少時間で終わります。計算してみれば、一年は八七六〇時間。八七六〇のうちのたったの一時間です。しかし、こんな慌ただしい時代だからこそ、心を落ち着け仏様に手を合わせる時間を持つことは、人生にとって本当に大切なものとなるはずです。

八月十四日（水） 昼二時

八月十五日（木） 昼二時

八月十六日（金） 朝九時（魚法会）



さかなくよう さかなほうえ こころざし ぎよぎょうしゃ せんぎき
魚供養、魚法会は、特に 志 を供えられた漁業者だけの法要ではありません。仙崎地区の鯨法会のように、どなたでも、また多くの方がともに仏法を聞くことが大切なです。たくさんのお参りをお待ちしています。

第50回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座のご案内

九月 四日（水） 昼一時半 五日（木） 昼一時半

今年は、極楽寺引受けで行われます。お誘い合わせてお参り下さい。【詳細は、2ページに】

第五十回
三隅地区親鸞聖人鑽仰会法会



講師 釈 徹宗 先生

1961年、大阪府生まれ。龍谷大学大学院、大阪府立大学大学院博士課程を修了後、大阪府池田市にある如来寺（浄土真宗本願寺派）住職となる。

法務のかたわら相愛大学で教鞭をとり、さらにはお寺の裏にある一軒家で地域の認知症高齢者のためにグループホームを運営するなど、多彩な活動を展開する。

著書『いきなりはじめる仏教生活』『仏教ではこう考える』『おてらくご～落語の中の浄土真宗』、また内田樹氏との共著『いきなりはじめる浄土真宗』『現代霊性論』など。

九月 四日（水）午後一時半より
五日（木）午後一時半より



五日は、
ホワংশイ・コーラスの
皆さんに、
歌っていただきます。

会場 野波瀬 極楽寺

お誘い合わせの上、お参り下さい

極楽寺駐車場が満車の場合、魚市場の駐車場へ停めて下さい

報告のページ

6月16日の総代・世話人会議にて、下記の通り収支決算が承認されました。

2012(平成24)年度極楽寺門徒会収支決算書

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	門徒会会費	804,000	延268戸×3,000円(野波瀬延119/在方延111/町外延38)	
	本山教化助成金	2,100	本山門徒講、永代経志進納によるもの	
	貯金利息	271		
	前年度繰越金	3,335,980		
	合計	4,142,351		
支 出	負担金	406,740	本山賦課金	245,600
			山口教区費	125,540
			大津東組 組費	35,600
	研修会費	25,000	組総代会総会(7/27)	3,000
			組総代会公開講座(11/3)	1,000
			教区総代一泊研修(1/25-26)	21,000
	火災保険料	139,700	西部農業共済	49,400
			本堂 6,700万円 JA共済	40,200
			庫裏 4,000万円 JF共済	50,100
	会議費	60,000	7/1 総代・世話人会議	
	慶弔費	0		
予備費	0			
合計	631,440			
差引残金		3,510,911	漁協普通預金	

※2013年度より、これまでの火災保険だけではなく、自然災害対応の保険に変更することになりました。

2012(平成24)年度極楽寺 特別会計収支決算書

	費目	金額(円)	摘要
収 入	定期預金	2,292,380	
	普通預金	72,238	
	利息	554	定期548円 普通預金6円
合計		2,365,172	漁協定期預金2,292,380円 普通預金72,792円

2013(平成25)年度の門徒会費は、前年通り3,000円です。

三隅地区の方は世話人さんへ。他地区の方は、直接お寺の方へ納入して下さい。宜しくお願いします。



毎日、お参りしましょう！
キャンペーン 第七弾

受け容れられる場所



浄土真宗において、お仏壇は単なる先祖を祀る場所では

ありません。お仏壇というくらいですから、阿弥陀如来と

いう仏様がおられなければ、そうとは呼べないのです。い

え、阿弥陀様がおられるからこそ、はじめてお仏壇と言えるのです。

私たちは、阿弥陀様を通して亡き人と出遇い、阿弥陀様を通して我が身を

知らされるのです。では、阿弥陀様とは、どんな仏様なのでしょうか。

受け容れて下さる仏様

阿弥陀様とは、私の願いを適えて下さる仏様ではありません。手を合わ
せても、宝くじは当りませんし、家内安全、無病息災、商売繁盛にもつ
ながりません。では、どんな仏様なのか。失敗しても、成功しても、病氣
であっても、齡をとつても、この私をそのままに受け容れて下さる仏様だ
と言えるでしょう。しかし、受け容れられることが、そんなに有り難いこ
となのかと、首をかしげられる方があられるかもしれませぬ。

これは昭和五十年代に書かれた、小学三年生の女の子の詩です。

「父ちゃん、母ちゃんとお金とどっちがええ？」

「そりゃ、かあちゃんさ」「一億円でも?」

「うん」「そんなら百億円でも?」

「うん。母ちゃんはお金にかえられない」「ほんと?」

母ちゃんとけんかしておい出そうとしても

心ではやっぱりそう思っているんだな わたしはうれしくなって

「やっぱり!」といって父ちゃんの肩をたたいてやった。

〔東井義雄 一日一言 致知出版社刊〕

「あなたは、お金にはかえられない。あなたは、かけがえのない存在だ。」と思ってくれる人があるということは、すごく幸せなことですよ。

近頃は、「お金があれば何でもできる」などと言う人がいますが、それは「他にもっとお金を出してくれる人があれば、あなたでなくてもいい」という、《かけがえのなさ》を売り渡していくことでもあることに、気づいておられるのでしょうか。

「お金にはかえられない、かけがえのない存在」だと受け容れられる人生と、「お金がないのなら、お金がかかるのなら、あなたはもう用がない。」と、お金が《生きる資格》となっている人生とは、まったく違ったものになってくるはずですよ。

そして、阿弥陀如来のご本願とは、「あなたは、かけがえのない存在です。あなたが敬われ、尊ばれる仏にならなかつたら、私は仏に成り

ません。あなたが、地獄に墮ちるなら、私も共に地獄に墮ちよう。」という願いです。私たちのことをかけがえのない存在だと受け容れて下さる阿弥様がおられることを、親鸞聖人は教えて下さったのです。

弱音が吐ける場所

葬送を考える行政書士・勝桂子さんによると、近頃は企業のCEO（最高経営責任者）、大学病院の医師、弁護士という人たちが、臨済宗のお寺に座禅に来るそうです。彼らに共通するのは、「弱音を吐くことができない」人たちだということ。座禅をし、自分を見つめ直して落ちついて、住職さんに弱音を聞いてもらうことで、精神的な均衡を保つのだそうです。やはり、安心して弱音を吐ける場があるということは、人間が生きる上で、本当に大切だということです。

また、ある方は「お仏壇の前に座りますと、ホッとします。親元に帰ったような気持ちになり、私のために待っていて下さったのかと思えます。」

〔お仏壇と私〕島田和子さん 本願寺新報への投稿より〕と言われます。阿弥陀様のおられるお仏壇とはすべてを受け容れて下さる場所ですから、ホッとできて、弱音が吐けて、愚痴や独り言が言える、ぬくもりのある場だということなのでしょう。私たちの先輩方は、そんな場所としてお仏壇と出遇い、自らを振り返る心の依り所とされたのです。

本願寺の大谷光貞ご門主が、「お仏壇のある家庭で育った子どもは、何か深刻な事態に遭ったときに立ち上がるというか回復する力が育ってい

るとい話を耳にいたします。」（『朝には紅顔ありて』角川文庫〇と指摘されるのも、やはりお仏壇のはたらきがあるからこそ、そして阿弥陀様のはたらきに育てられた家族に囲まれているからこそだと言えるでしょう。

仏様に認められるからこそ

社会学者の小熊英二氏は、

「宗教があまり大きな意味をもっていない現代の日本では、アイデンティティの確認が、他者から認めてもらうという形態で行われている。誰も認めてくれなくても、神様が私を見て下さる」という回路が成立していないわけですから、「他人様」や「世間様」が「神様」にちかくなる。そうすると「他人に認めてもらえない」ことは「神に見捨てられる」とに等しい。」（『対話の回路 小熊英二対談集』）

と指摘しておられます。人間関係とは、本当に難しいものです。そして人間ですから、行き違い、すれ違い、仲違いは当然あるのです。にも関わらず、『人間関係の断絶』が、イコール『生きる資格の喪失』になっているのであれば、これは生きにくいでしょう。

阿弥陀如来はすべてのいのちあるものを、尊び、受け容れ、必ず仏にさせると誓われた仏様です。そして、その願いに気づかされた時、自分がいかに《いのちのかけがえのなさ》を見失っていたのかという深い内省（悪人の自覚）が生まれてくるのだとも、教えられるのです。

こんな時代だからこそ、阿弥陀様のはたらき、お仏壇のはたらきに気づくことが、ますます求められているのではないのでしょうか。 ■



極楽寺揭示伝道
けいじてんどう

7月の言葉

「天下無敵」の意味を辞書で調べると、「世の中に並ぶものがないほど優れていること」とあります。これは普通、「すべての敵を倒せるほどの力を持つ」ことだと受け取られているのではないのでしょうか。しかし、大きな力があれば敵がなくなるかという、そうはいかないのが難しいところでは。

近頃の政治家には、わざわざ敵を想定し、煽り、自慢の話術で一刀両断することで、ストレスを抱えた庶民の溜飲を下げ、人気を高めるという手法をとる方もあります。しかし、傷口が縫えないほどの切れ味の良い口調で、非情な批判を受けた側には、もはや怨念しか残りません。そこから「共に力を合わせて」とか、「お互いさま」などと言った関係など生まれるはずもないでしょう。だから失言でもすれば、容赦のない反撃にあうのです。私たちも、誰かが切り捨てられることを拍手喝采する前に、それが問題を深刻にしていることに気づかねばなりません。

今月の言葉は、相手の素晴らしさ（勝ち）を認め、讃える（負ける）ことができる人は、もう勝ち負けを超えているから、負けることもない（無敵）という意味だそうです。別の言い方をすれば、作家の吉川英治氏が生涯大切にされた、「我れ以外、みな我が師也」という言葉でしょうか。

私たちは、負けを認める時にいやいや頭を下げますが、相手の素晴らしさに感動するときには頭は自然と下がるのだと教えられます。逆に言えば、自然と頭が下がる人の心の豊かさこそが、「世の中に並ぶものがないほど優れていること」だと言えるのでしょう。

私たちの先輩方は、阿弥陀様の心をいただく中で、頭が下がる身へと育てられました。そこに、自らの人生を本当に豊かにしていく道を示して下さったのです。今回は私、特に深く反省しながら、味わっていることでもあります。■



8月の言葉

「逆上せる」と書いて、さて何と読むでしょう。答えは「のぼせる」です。意味は、①頭に血が上って、ぼうっとなる。②興奮して、理性を失う。逆上する。③夢中になる。④思い上がる。ということですが、近頃日本で「宗教」と言えば、まさしく「逆上せる」もの、夢中になり、理性を失い、周りが見えなくなるものというイメージで捉えられているのではないのでしょうか。

何事についても、夢中になるということはよいのですが、それで周りが見えなくなるといけません。お酒や賭け事に逆上せるのも困りものですが、もっと困るのは「自分が正しい」という思い込みです。宗教に限らず、イデオロギーも、投資やダイエットも、どんな取り組みであれ、自分の選んだ道が正しいという思いに逆上せると、心を頑なにし、聞く耳を持たず、周りの事情も考えず、時には「大義のためには、人を殺してもかまわない」という方向にさえ、行きかねません。「正」という字は「一回止まる」と書くのですから、それだけ自分を振り返る視点が大切なのだということなのでしょう。

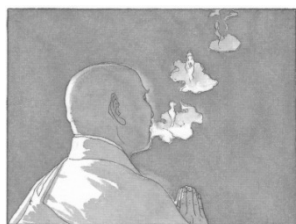
ある方から、こんな譬え話を教えていただきました。掌を開いてみて下さい。そこに光が当たっていますね。では、その光を握ってみましょう。さて、握った拳の中に光はあるでしょうか。いえ、拳の中には聞かないのです。私たちは、自分の信じた正義を握りしめているつもりで、実は見失っていることが多々あるのです。それが真剣な取り組みであるほどに、積み重ねてきたことが手放せず、握りしめた思いをますます頑なにするのでしょう。

浄土真宗における「信じる」とは、阿弥陀様の心をいただくということです。それは自分の信じたことを頑なに握りしめるのではなく、自分の在り方を、常に阿弥陀様の心に問い訪ねていくことです。

どんなに都合が悪くても、それが大切なことであるならば、受け止めていこうとする「掘り所」に出会うということなのです。阿弥陀様の心は、自分の愚かさも、弱さも、受け止めて下さる世界です。そんな世界と出会う時、人は安心して間違いを受け容れ、握りしめた拳を開くことができるのではないのでしょうか。そこにこそ、深くて豊かな生き方があるのだと教えられます。■

一回止まる

五木寛之氏『親鸞～完結篇』連載スタート！



五木寛之氏の朝刊連載小説「親鸞 完結篇」が七月一日から、山口新聞をはじめ全国約四十紙で掲載されています。京都を舞台に修行に励みつつも煩惱に苦しむ若き日が描かれた第一部『親鸞』。越後へ追放され、さらに関東を流浪し、師の教えと向き合い苦悩する姿を描く『親鸞 激動篇』。そして今回の『完結篇』では、京都へ帰り思索を深める聖人を待ち受けていた夫婦、親子、子弟、組織という波乱の数々を通して、その生きざまが描かれるとのこと。本当に楽しみです。

ちなみに、第一部『親鸞』第二部『親鸞 激動篇』は、文庫本にて絶賛発売中です。

極楽寺お寺の子ども会 ～花火とかき氷の夕べ～



8月のお寺の子ども会は、夜の子ども会です！

8月19日(月)

夜7時30分から 9時前には終わります

大津東組キッズサンガ ～お寺にとまろう！～

毎年恒例の大津東組主催、キッズサンガ。

今年は、俵山 西念寺で開催いたします。

たくさんの方のご参加をお待ちしています！！



◇ 日 時 8月1日 (木) 午後2時より 2日 (金) 午後1時まで

◇ 場 所 長門 俵山 西念寺 ◇ 対 象 小学3年生から6年生まで

◇ 会 費 1,500円 (当日集めます) ◇ 申し込み&お問い合わせ お寺まで。

世話人の交代について

【室生】 退任 田村末夫さん <1997 (平成9) 年4月より、16年1ヶ月在任>
後任 江本富夫さん

田村さん、長い間本当に有り難うございました。江本さん、どうぞよろしく申し上げます。

□今年の極楽寺は、鑽仰会の引受けだけではなく、大津東組真宗青年の集いの会場も引き受けるなど、ビックイベントが続きます。皆様、お手伝いよろしくお願いします。□最近、ますます住職のお腹が出てきました。運動不足はモチロン、ダイエットへの意欲も不足しています。一体どうしたらよいのでしょうか。皆さまの叱咤激励をお待ちしております。